



学校園だより

良樹細根

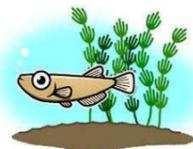
丹波篠山市立
たまみず幼稚園
城北畑小学校
6月の2



10日(木)1、2年生が畑川に出かけ、瀬利自治会様にお世話になりながら梅もぎ体験をさせていただきました。今年は豊作だったため手を伸ばすだけでたくさんの梅をとることができました。嬉しそうなお顔を帰ってくる子どもたちの買い物袋をのぞくと、大きく立派な梅が入っていました。スーパーでは1kg約1,000円します。贅沢な経験をさせていただきました。「身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わることに気付く」というのが1、2年生の生活科の目標です。丹波篠山市には四季折々の自然がたくさんあります。この日は梅雨の晴れ間で、子どもたちはまぶしいくらいの太陽の光を全身に浴びていました。梅の葉っぱも青々と光っていました。梅の木、梅の葉っぱ、梅の実、実の付き方、実の肌触り等々、十分な観察と体験ができました。子どもたちに幸せな時間を提供していただいた、瀬利自治会様、ありがとうございました。

○●○●11日(金)4年生が畑川に出かけ、生き物調査の学習と魚道見学とをしました。講師には、丹波篠山市農都環境課の菅原将太様と篠山東雲高等学校の田井彰人先生をお招きしました。

私は今日、畑川へ生き物調査に行ってきました。まずさい初は、「魚道」についてお話を聞きました。絵もあってとても分かりやすかったです。次に、畑川へ行きました。今まで一回も畑川へ行ったことがなかったから、わくわくしました。みんな着いたところで、田井先生から畑川について少しお話をしてもらいました。お話が終わったところで、さっそく魚をつかまえ始めました。みんな一しょうけん命集中して取り組んでいました。さっそく、「エビが取れた〜!!」と言っている子がいました。次には、「サワガニ取れた〜!!」と言っている子もいました。一方、私は何も取れませんでした。けど時間がたっていくごとにエビや大物のアメリカザリガニが取れてよかったです。今日は、いろんな人に手伝ってもらったからできたのじゃないかなと思いました。



ぼくは、今日、畑川調査にみんなで行きました。まず、畑川にいる魚やサワガニなどを見つけて、あみでつかまえた魚などを水族館みたいにするために水そうに入れました。本当にいろんな魚がいたのでビックリしました。次に、田井先生がそれぞれつかまえてきた生き物を説明してくれました。分

かったことは、オイカワとカワムツはにいていて、オイカワは、ささ山川に多く、カワムツは、畑川に多いことです。他にも、ヨシノボリにきゅうばんがあるわけは、石の下にたまごをうむためだということが分かりました。きれいな川に住むサワガニやゲンジボタルがいるから、きれいな川だと分かりました。ぼくは、二日前に川でゲンジボタルを見て、「ホタル川や。」と言ったぐらいたくさんいました。昨年よりたくさんいたので、うれしかったです。来年はもっとふえてほしいです。

畑川へレッツゴー!!

今日、畑川へ生き物調査に行きました。田井先生が、「生き物は、石の下や草のしげみにいます。」と言っていたので、さがしてみると、エビが取れました。でも、エビ以外はぜんぜん取れませんでした。なので、人が集まっていた場所に行き、あみを入れると・・・、アカハライモリが取れた! やったー!! 次は、ザリガニをつかまえようと上流の方へ行くと、どんどん深くなって行って、こしまで水かさが増えました。でも、結局のところ、生き物はそれほどいませんでした。生き物は、たくさんとれました。中でも特に多かったのはエビでした。ザリガニは、だっ出しようとしていました。その次に、PHをしました。調べてみると、畑川の水は、ひか酷的きれいだと分かりました。畑川には、たくさんの生き物がいると分かりました。また、それは、畑川の水はきれいだということにつながっていると思いました。



3年生研究授業

11日(金)5校時、京都女子大学、坂井武司教授を講師としてお招きし、算数

科の授業を公開しました。
単元目標「一万をこえる数について、既習の数の表し方に基づいてその仕組みを考えたり説明したりすることを通して、数の大きさや十進位取り記数法についての理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。」
5校時の目標「一億までの数について数直線上に数を表したり、数直線上の数をよんだりできる。」

※一万より大きな数については、具体的に数えたり、数を唱えたりする経験は少ないので、その指導に当たっては、十進位取り記数法の原理を基にして理解を図ったり、万の単位の目盛りの付いた数直線の上で数を表すことによって理解できるようにする指導が大切で、数直線という算数用語も指導します。他教科で統計資料などを目にする事が多く、そこでは万の単位の数が使われていることが多いので、その大きさをつかんだり読んだりすることで、学んだことを活かしていきたいと思います。

〜〜 初任者になったつもりで今回の授業を参観した藤本の感想 〜〜

- ①本時の目標を板書するとき、子どもの速さに合わせていた(教師が独り歩きしていない。一緒に学習していこうという姿勢が見られた)。
- ②児童が前に出て説明するとき、多くの児童がみんなの方を向きながら発言していた(児童同士の学び合いが鉄則、普段からの指導の足跡が見られる)。
- ③児童は、つなぎ言葉「〜だから、つまり、〜なので、もし〜だったら」等を使いながら説明していた。
- ④教師が児童に語りかける言葉の大きさと速さが適切である(児童にとって聞き取りやすい教師の音量とゆっくりとした語りだったため、学びやすい)。
- ⑤すっきりとした板書がなされていた(児童にとって学んだことを頭で整理しやすい良さがある)。
- ⑥板書の字がきれい(これも児童にとって集中を切らさない良さがある)。

教師にとって授業は一丁目一番地であり、上記の6項目は授業成立の鉄則、基本中の基本です。教師の資質能力向上に向けてこれからも授業を参観していきます。



秋の夜長には欠かせない鈴虫ですが、今年もたくさんの鈴虫が産まれました。体長3ミリぐらいでしょうか、飼育容器にいます。鈴虫ご希望の方は、容器の中に土を入れて持ってきてください。いくらでもお分けします。